

日々の点検・メンテナンス

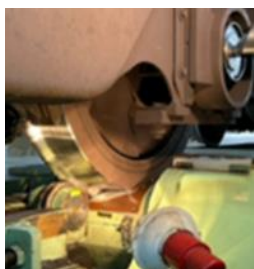
鉄道の安全は、さまざまな設備（ハード）と人（ソフト）によって支えられています。専門の技能を習得した技術関係の社員が地下鉄・ニュートラムをあわせて 137.8km に及ぶ線路と各種施設を「見る」、「聴く」、「触る」、「臭う」、「感じる」の五感をすべて働かせて日々確実にメンテナンスを行うことにより、安全で安定した輸送の提供に努めています。

電気施設の点検・メンテナンス



電気技術者は、電車の安全・安定輸送を確保するとともに、お客さまに快適にご利用いただくため、電気設備の保守を日夜実施しています。各種設備は電気指令所で 24 時間集中監視するとともに、設備故障時には、保守区社員が現場に駆け付け、故障箇所を特定し、部品交換や修繕を行っています。また、日々の点検では五感を働かせ設備の異常や変化の発見に努め、障害発生前に処置を施し、安全・快適にご利用いただくため尽力しています。

車両の点検・メンテナンス



車両技術者は、安全走行に重要な役割を果たす車輪の定期的な形状の測定及び目視・触手点検のほか、車両走行時の「音」にも注意を傾け、車輪の状態を把握し、損傷の早期発見に努めています。車輪に関する問題が発生した場合は、他の保守部門と連携しながら問題の解決を図っています。

線路や構築物の点検・メンテナンス



保線技術者は、日々の巡視検査において、電車走行時の「音」を聴き分け、目視や詳細調査をもとに軌道状態の確認を行っています。また、さらなる安全確保を目指し、軌道検測や撮影技術を用いた軌道モニタリングシステムの導入を行っています。構造物管理を担当する技術者は、事後保全だけではなく、事前に劣化を抑制する予防保全に力を入れて、構造物の延命化、輸送の安全確保に取り組んでいます。

建築物や建築設備の点検・メンテナンス



建築技術者は、建築仕上げ材の不具合を速やかに確認・把握するため、目視や打音による定期的な点検を実施しています。建築施設の状態から処置が必要と判断した部位について、応急措置や大規模修繕工事の計画・実施を行っています。また、駅構内での火災等を想定し、速やかに避難していただけるよう設置している防火シャッターなど防災設備の点検・整備を行っています。これら建築施設の予防保全に努め、安全で快適な施設の提供に取り組んでいます。